

ダリアで見直す地域活動

岡田照代（ダリアを楽しむ会 代表）

はじめに

三田市から東北へ約15キロ、宝塚市北部の上佐曽利地区は80年以上の歴史を持つ、全国有数のダリア球根生産地です（約300品種・年間約80万球）。この地域は標高が約200mあり、南部の市街地に比べて夏は2～4℃気温が低いので、冷涼な気候を好むダリアの栽培に適しています。

ダリアは、キク科の多年草でメキシコ、グアテマラなど中南米の高地が原産地です。フランス、オランダなどで品種改良が進み、現在では約3万品種以上にも上るさまざまな形と色のダリアが創り出されています。日本でも毎年新しい品種が発表されています。

ダリアを楽しむ会の活動

本会は2005年から、宝塚市の特産品であるダリアの花や球根について市民の関心を高め、生活の中でさまざまに利用することを目的に以下のような活動を続けています。

- (1) ダリアの花を使った染色や封入標本づくりなどの普及啓発
- (2) ダリアの栽培及び切り花利用の普及
- (3) ダリアの食用に関する試作など新たな利用の調査研究

① 宝塚市内のこども園や小学校で郷土学習や環境学習を支援しています。



宝塚市西谷こども園で“ダリアの花びら染め”体験学習を指導（2011/11/11）



宝塚市西谷小学校で郷土学習としてダリアの球根植え付けを指導（2009/05/12）



西谷小学校でダリアの花の封入標本づくりを指導（2008/11/17）





宝塚市東公民館サマースクールでダリアのフラワーアレンジメント教室 (2015/7/27)

② 宝塚市西谷の収穫祭・ダリアまつり・アート展などでダリアの魅力を広くアピール



宝塚市西谷収穫祭でダリアの花絨毯づくりとフラワーアレンジメント教室 (2013/11/3)

③ ダリアの球根を使った料理の試作と試食会の開催



ダリアの球根や花びらを使った寿司や甘酢づけなどの試食会 (2015/7/8)

④ ダリアを話題とした交流会等による「人の環づくり」



ダリアを活用した町おこし懇談会(2015/08/17)

JA 女性会でフラワーボトル教室開催 (2015/09/01)

⑤ 県立公園や民間企業での協働による楽しい啓発活動



県立明石公園のまちづくりガーデンショーでダリアなどの花の衣装をまとう(2014/10/04)



宝塚ガーデンフィールズと協働で干支にちなむダリアの花絨毯などを制作(2011/11/5)

地域活動としての成果

普及活動などを10年以上続けてきたこともあって、宝塚北部・西谷地区ではダリア栽培を中心とした「花の里」づくりの機運が盛り上がっています。

特に2014年度(平成26年)には、宝塚市が市制60周年記念事業の一環として「ダリアで彩る花のまちづくり事業」を実施しました。市内の主な公園・緑地や49の小学校・幼稚園の校庭にダリアの球根約5000球が植えられ夏から秋にかけて華やかな花が市内各所を彩ったことや、宝塚駅前での大規模な「ダリアの花飾り」イベント等で市民の関心が広がったと評価しています。

また近年、西谷地区に在住のアーティスト達がダリアをモチーフにして写真、スケッチ、版画、壁画などの創作に取り組み、作品を上佐曾利地区の生協店舗の一角に展示しています。さらに、ダリアを使った化粧品・乳液、石鹸などの開発販売などの動きもあります。

これらダリアを利用したさまざまな事業や活動の応援やつなぎ役として、本会の存在が少しは役立ってきたものと自負しています。

今後の展望

宝塚市北部地域(旧西谷村)はここ数年で大きな転機を迎えます。大きな要因は2017年春に予定されている新名神高速道路の宝塚北スマートインターチェンジ(仮称)の開設です。今まで静かだった村にも、他府県から多くの車や人が入ってくるでしょう。住民にとっては不安要素もありますが、地元の資源や人材を活かすチャンスにもなります。80年以上の歴史を持ち全国的にも優れた栽培技術と販路を持つダリアとその活用は最大の地域資源と言えます。

これを活かすには、さらに知名度を上げること、そして他の農産物やサービスと組み合わせた新たな付加価値を見つけ出す必要があります。例えばダリアを使った料理の試作は飲食関係のプロも関心を示し、本格的な検討が始まろうとしています。

本会が進めてきたダリアに関する多面的な評価や他分野とのコラボレーションが地域資源としての魅力アップと新たな展開につながることを期待しながら、今後も地道な活動を続けていきたいと考えています。